Press Release

2019 年 1 月 29 日
株式会社マイナビ

2020 年卒 マイナビ大学生のライフスタイルを調査

結婚後「共働きを望む」割合は女子で初の 7 割超

「育児休業をとって積極的に子育てしたい」男子の割合は 4 年連続増加で 43.6%

株式会社マイナビ（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：中川信行）は、2020 年卒業予定の大学生・大学院生を対象とした「2020 年卒 マイナビ大学生のライフスタイル調査」を発表しました。本調査は今年で 10 回目となります。調査概要は以下の通りです。

【TOPICS】
- 男女ともに『Facebook』の利用が 2 割を切り、『Instagram』の利用は大きく増加。
  SNS でつながっている友達の平均人数は前年より約 20 人増え、300 人弱という結果に
- 『新聞』が 7 年連続で「最も信頼度が高いメディア」になるが、割合は 33.6%で過去最低
- 定期的なアルバイトの実施割合が過去最高の 78.4%。1 カ月のアルバイト収入は平均約 4 万円
- 結婚後「共働きを望む」割合は、女子で初の 7 割超。「親が共働きだから」の割合が上昇
- 「育児休業をとって積極的に子育てしたい」男子の割合は 4 年連続増加で 43.6%

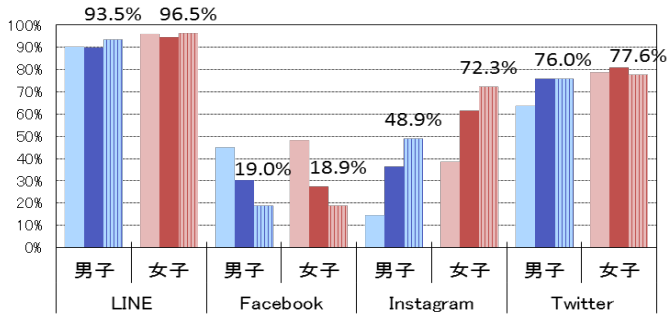
【調査結果の概要】

▼男女ともに『Facebook』の利用が 2 割を切り、『Instagram』の利用は大きく増加。SNS でつながっている友達の平均人数は前年より約 20 人増え、300 人弱という結果に

「よく利用する SNS」について、『Instagram』と回答した学生の割合は前年よりさらに増加し、男子は半数弱、女子は 7 割強に上った（男子：48.9%、前年比 12.5pt 増／女子：72.3%、前年比 10.6pt 増）。一方、『Facebook』と回答した学生はさらに減少し、男女ともに 2 割を切った（男子 19.0%、前年比 11.2pt 減／女子 18.9%、前年比 8.7pt 減）。

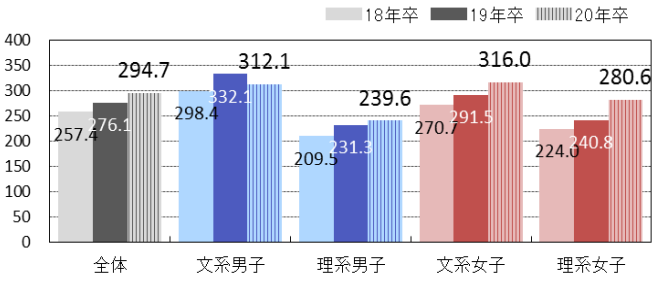
また、「SNS でつながっている友人・知人の数」を聞いたところ、全体平均は 294.7 人（前年比 18.6 人増）で 2 年連続増加という結果に。文理男女別でみると、最も多いのは文系女子の 316.0 人（前年比 24.5 人増）で、前年比で最も増えたのは理系女子 280.6 人（前年比 39.8 人増）となった。

図 1 よく利用する SNS (複数回答・割合が高いものを抜粋)



左：17 年卒　中：19 年卒　右：20 年卒
※18 年卒では調査せず　数字は 20 年卒

図 2 SNS でつながっている友人/知人の平均数 (単位：人)

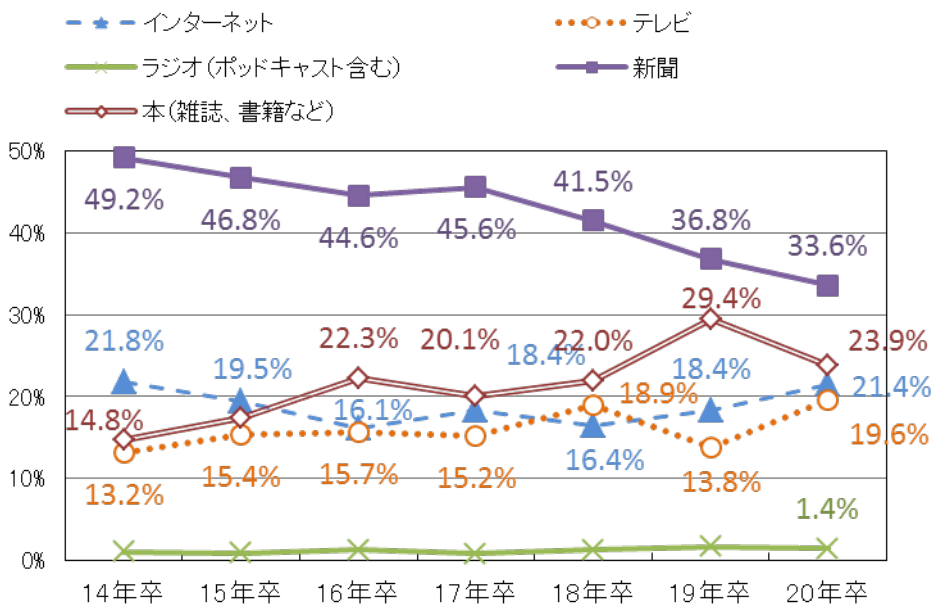


▼『新聞』が 7 年連続で「最も信頼度が高いメディア」になるが、全体に占める割合は過去最低

情報源として「最も信頼度が高いメディア」について聞いたところ、一番割合が高かったのは、7 年連続で『新聞（33.6%、前年比 3.2pt 減）』だが、その割合は年々減少しており、2014 年卒の調査開始以来最低の結果となった。その他のメディアについては、『インターネット（21.4%、前年比 3.0pt 増）』と『テレビ（19.6%、前年比 5.8pt 増）』がそれぞれ前年よりやや増加し、『本【雑誌、書籍など】（23.9%、前年比 5.5pt 減）』の割合は減少している。

また、情報源として「最も利用しているメディア」について聞いたところ、圧倒的に割合が高かったのは『インターネット（85.3%、前年比 3.1%増）』で、その割合は 2014 年卒の調査開始以来最高だった。インターネットは今や情報を得る上で欠かせないメディアであり、今後も引き続き利用する機会が増えることが想定される。3 年連続で「最も信頼度が高いメディア」としての全体に占める割合は増加しているものの、多数存在する『インターネット』上の情報から真偽を見抜く力がより必要になることを示唆しているともいえる。

図 3 情報源として最も信頼度が高いメディア



▼定期的なアルバイトの実施割合が過去最高の 78.4%。1 カ月のアルバイト収入は平均約 4 万円

定期的なアルバイトをしている学生の割合は、全体で 78.4%（前年比 2.8pt 増）で、3 年連続で増加。2014 年卒の調査開始以来過去最高となった。文理男女別で見ても、すべて前年より増加し過去最高を更新したが、特に理系女子における増加割合（77.2%、前年比 5.6pt 増）が高い結果となっている。アルバイト求人市場の人手不足や昨今の有効求人倍率の増加、売り手市場によって、アルバイトの就業割合は本調査で出た最高値の結果につながっているといえる。

また、アルバイトによる収入の 1 カ月平均（不定期のアルバイトも含む）は「約 4 万円（3 万 9,562 円）」。文理男女別で最も収入が多かったのは文系男子の「4 万 5,061 円」、続いて文系女子の「4 万 2,731 円」となり、文系の方が理系より収入が多い傾向だった。1 週間に定期的なアルバイトをしている日数や、アルバイトをしている時間においても、文系が理系を上回っており、それが収入差につながっているといえる。

図 4　定期的なアルバイトをしている割合

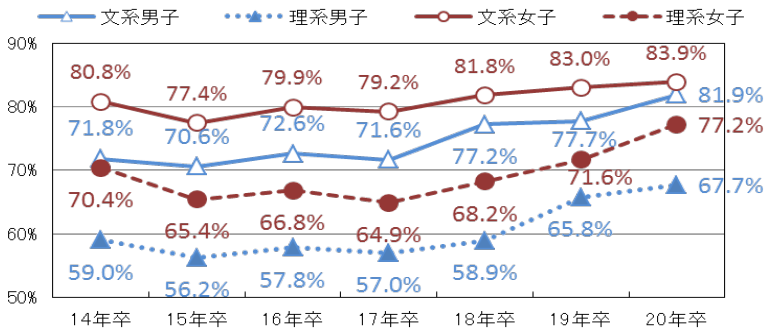


図 5　アルバイトによる収入平均･分布
(1 カ月平均。不定期のアルバイトも含む)

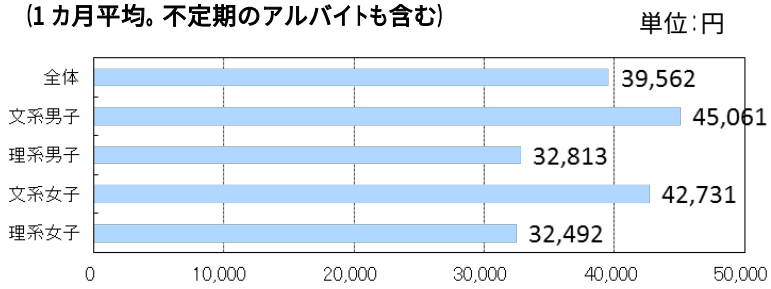


図 6　1 週間のアルバイト日数･アルバイト時間平均

	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子
1週間のアルバイト日数平均〈単位:日〉	3.1	2.7	3.0	2.6
1週間のアルバイト時間平均〈単位:時間〉	16.7	13.8	16.2	13.0

▼結婚後「共働きを望む」割合は、女子で初の 7 割超。「親が共働きだから」のポイントが上昇

結婚後の仕事に関しての考えを聞くと、「夫婦共働き」を希望する割合は、男子 49.5%（前年比 0.8pt 増）、女子 70.8%（前年比 1.3pt 増）で男女ともわずかに増加した。2016 年卒の調査開始以来、女子の共働きを希望する割合が 7 割を超えたのは初めてとなる。

「共働きが望ましい」と考える理由では、男子で最も割合の高い「結婚相手が仕事を続けたいならその意思を尊重したいので（25.0%、前年比 2.6pt 減）」は 2 年連続で減少し、女子で最も割合の高かった「仕事を続けることが生きがいになると思うから（17.8%、前年比 1.6pt 減）」もわずかに減少した。

一方、男女とも「親が共働きだったので自分もそうしたいと思うから（男子：13.6%、前年比 3.4pt 増／女子：11.2%、前年比 3.2pt 増）」の割合が増加している。共働きをする親の姿を見て育つことで、自然と同じライフスタイルを望む学生が徐々に増えてきていることが推測される。

図 7　結婚後の仕事に関してどのように考えているか

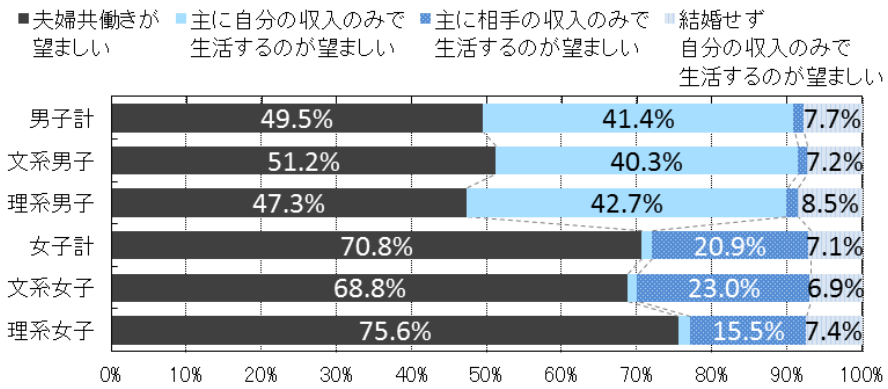


図 8 共働き志向の推移

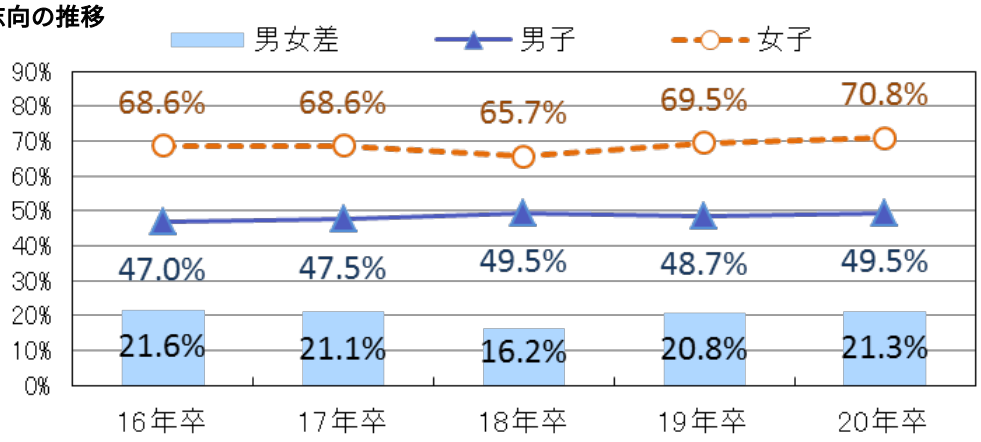


図 9-1 共働きが望ましい理由の推移 (男性)

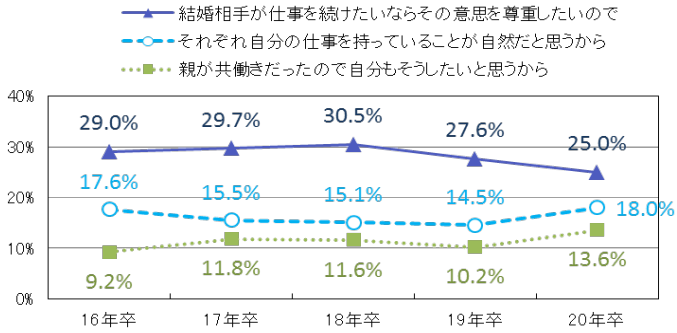
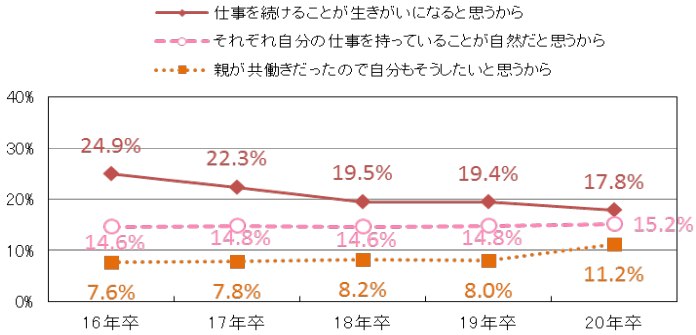


図 9-2 共働きが望ましい理由の推移 (女性)



▼「育児休業をとって積極的に子育てしたい」男子の割合は 4 年連続増加で 43.6%

子育てについて、「育児休業を取って積極的に子育てしたい」と回答した割合は、男子は 43.6%（前年比 4.9pt 増）、女子は 66.0%（前年比 0.9pt 増）で、特に男子で増加割合が高かった。経年の推移を見ると、男子の割合は 2016 年卒以降 5 年連続で増加しており、5 年ぶりに 4 割台にのった。男女の差は 22.4%で 2014 年卒の調査開始以来最小値。男女とも前年同様「子供が小さいうちはできるだけそばにいてあげたいから（男子：30.6%、前年比 0.6pt 増／女子：42.2%、前年比 3.7pt 減）」という理由が最も多い結果となった。特に男子で「育児期間中は育児に専念したいから（25.6%、前年比 5.2pt 増）」を選ぶ割合が増加していることは、男性も育児に積極的に参加する姿勢が徐々に根付き始めていることが読み取れる。

図 10 「育児休業をとって積極的に子育てしたい」の割合推移

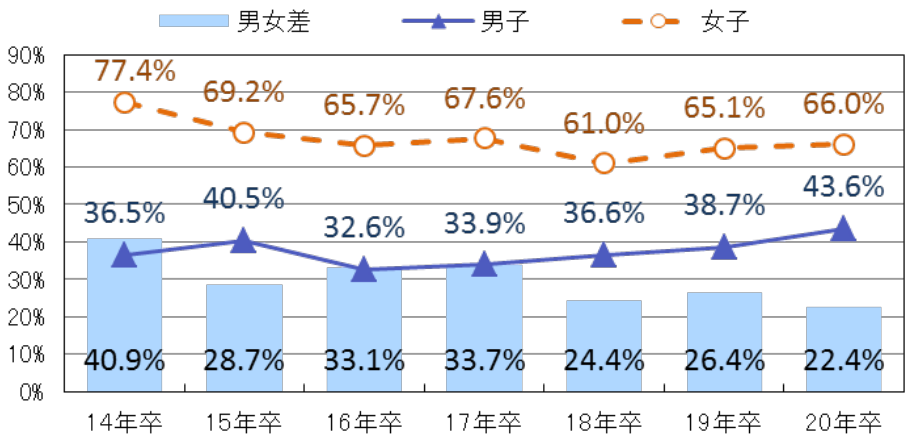
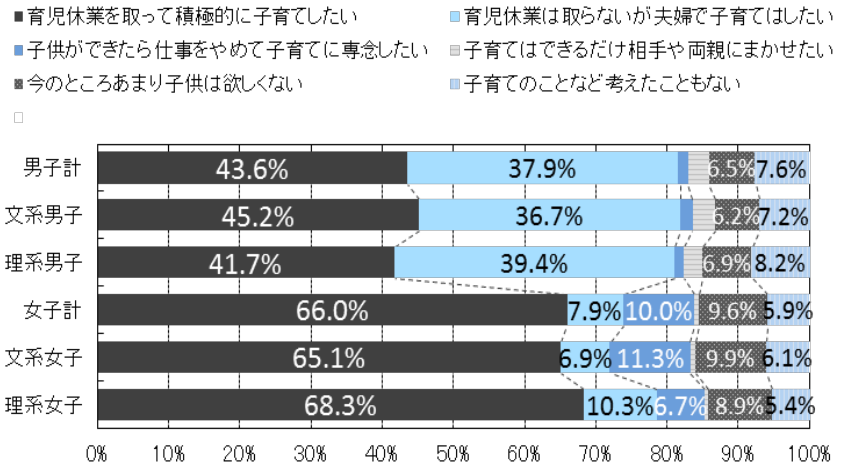


図 11　子育てについて、あなたの考えに近いもの



【「2020年卒　マイナビ大学生のライフスタイル調査」概要】

〇調査期間：2018年11月26日（月）～2018年12月24日（月・祝）
〇調査方法：2018年11月26日時点のマイナビ2020会員の大学生・大学院生にWEB DMを配信。
2018年11月27日に過去のアンケート回答者にWEB DMを配信。
〇有効回答数：4,656名（回答内訳：文系男子965名／理系男子869名／文系女子2,003名／理系女子819名）

※調査結果の詳細は採用サポネット（https://saponet.mynavi.jp）で公開しています

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社マイナビ
社長室　リサーチ＆マーケティング部
石田
Tel：03-6267-4571　Fax：03-6267-4145
Email：myrm@mynavi.jp

【当社に関するお問い合わせ先】
株式会社マイナビ
社長室　広報部
大上
Tel：03-6267-4155　Fax：03-6267-4050
Email：koho@mynavi.jp